



早いもので、平成24年11月より本欄を担当させていただいてから6年度目に入ります。スタッフの顔ぶれも変わり、それに応じて内容も少しずつ変わっては来ておりますが、先端研究の紹介はもとより、時事問題の解説、雑感など、これまで同様、各教員からさまざまな情報を発信いたしません。

さて先日、新入生たちのための経済学・経営学に関する何か推薦書を大学の図

書店から感じる懸念

書店を数軒のぞいてみて改めて驚きました。少し前までは、売れ行きが必ずしも良くない専門書であっても、何とかそれなりにスペースを割いていた著名書店も今は見る影もなし。経済や経営に関するビジネス書や啓発書、新書類は多くても（それが悪いと言っているわけではない）、少し踏み込んだものはほとんど見かけません。私の出自でもある数理関係の書物となると、推して知るべし、です。これでは気軽にいくつかの本を手にとって眺め、その中から自分に合ったものを選択することなど困難でしょう。

ただ、テーマを限定した専門書を購入しなくても不自由を感じないかもしれない。研究論文を読む研究者と異なる体系的な基礎知識を身につけてもらいたいし、そのためには質・量ともそれなりのボリュームを持った専門書を読んでもらいたい。そしてそのような本は、長くじっくりと付き合うという意味で、電子化されたものより製本されたものが適切であろうと思っております。いかがでしょうか（近眼と老眼が重なり、電子書籍と長時間付き合えない年寄りのひがみでしょうか）。

棚から消えた専門書

書館から求められたので、年寄りが昔読んだ本よりは最近の良本をと思いい、彼らもよく利用しそうな大きな



名古屋市立大学大学院 教授
経済学研究科研究科長 三澤 哲也

もちろん、ICT技術の進歩によるさまざまな「知財」へのアクセスが容易となり、通常の書籍でさえ売れなくなりつつある現在、出版社や書店がニーズのない専門書の扱いを縮小せざるを得ないのは理解できます。そもそも私も含めて多くの学者が電子化された論文を読んで研究するのが当然の世の中ではあります。電子書籍や電子検索データベースなどに適応した若い人からすると、学修するうえで教科書以外に特に専門書を購入しなくても不自由を感じないかもしれない。ただ、テーマを限定した研究論文を読む研究者と異なる体系的な基礎知識を身につけてもらいたいし、そのためには質・量ともそれなりのボリュームを持った専門書を読んでもらいたい。そしてそのような本は、長くじっくりと付き合うという意味で、電子化されたものより製本されたものが適切であろうと思っております。いかがでしょうか（近眼と老眼が重なり、電子書籍と長時間付き合えない年寄りのひがみでしょうか）。

みさわ てつや 統計数理
投資工学。京都大学大学院工学
研究科博士後期課程修了。19
58年生まれ。

